

2024 年 02 月 20 日

## 2023 年度「自立援助ホーム支援助成」事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人 青少年の自立を支える会

ホーム名 星の家

代表者・役職名 氏名 ホーム長 斎藤 菜

## ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

## 1. 申請事業の名称

夢の国 東京ディズニーランドへ

## 2. 自立援助ホームの概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

平成8年12月、星俊彦(前理事長)が自立援助ホーム設立を決意。有志が集まり設立準備会を組織。平成9年5月「青少年の自立を支える会」準備会集会。同年7月「青少年の自立を支える会」設立総会(代表に伊達悦子が就任)。

同年9月自立援助ホーム「星の家」開所。2023年3月現在会員数 300人

## 3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

親からの支援を受けることができない利用者は就労して貯金をし、アパートでの自立を目指して日々努力しています。ホームの予算では交通費、入場料等の費用を支出することが難しい状況にあります。

自立の為に就労している利用者は貯金から交通費、入場料を捻出するのは難しいです。

星の家の仲間と夢の国 東京ディズニーランドで一日過ごし楽しい幸せな思い出を作ってほしい。

## 4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

「星の家」入居者と職員で東京ディズニーランド日帰りの旅。新幹線の車中も楽しむ。現地では一緒に食事したりグループ行動したり夢の国を満喫する。おこづかいを渡し自由にお土産等を購入する。

アトラクションを調べたりして当日のスケジュールを考える時間を楽しみ、学校の遠足のような気分を味わう一日にする。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

同じ家に生活していても仕事等で顔を合わすことの少ない子どもたちが員で 夢の国 東京ディズニーランドで一日過ごしたことは子どもたちにとって学校の遠足のように忘れない思い出になったと思う。現地ではお揃いのカチューシャを着けたりお揃いのお土産を購入したり日常ではない時間やお金の使い方をして本当に夢の国を味わっていた。  
全員で外出することがほとんどない子どもたち全員参加できたことだけでも大成功だった。  
「次は働いたお金でもう一回行きたい」と仕事への意欲にもつながった様子。  
このような機会をいただきありがとうございました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

OB・OGも誘って実行する予定でしたが仕事等の都合が合わず当日は入居者4名の参加でした。職員は3名同行しました。日程を決定することが考えていた以上に難しく2月の実施になりました。宿泊の予定で申請していましたが日帰りの実施になってしまいました。この経験を活かしてOB・OGも参加して宿泊での旅行の計画をしようと楽しい会話が弾み、仕事への意欲を継続することになればよいと考えます。

7. 参考資料: プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。

